

朝日中学校だより

笑顔あふれるあたたかい学校

令和4年3月14日発行



【教育目標】 進んで学び 豊かな心をもった たくましい生徒

3月全校朝会講話 「父の背中」

校長 木ノ瀬隆幸

3月5日は陰暦で用いられていた二十四節気にじゅうしせつきの一つで「啓蟄けいちつ」です。春の暖かさを感じて、冬ごもりしていた虫が外に這い出てくるころのことです。虫だけでなく、我々人の心も動き出します。2日には保護者や地域の皆様のお陰で、卒業式を無事に行うことができました。感謝に堪たえません。3月はことさら時が経つのが早いと感じます。

さて、我が家の3月は三面川のサクラマス漁で始まります。父に連れられて、川舟に乗り込み、川岸の岩や樹木を利用して、マスが休むと思われる場所に刺し網を仕掛けました。川舟を巧みに操る父の背中が大きく見えました。私の仕事は、網についたゴミをとること。そして、作業中に何度も腰を低くするように注意されました。一步間違うと転覆の危険性があり、命を落としかねないからです。多い年には父の



居繰り網漁

網には3ヶ月で100本を超えるマスが入りました。昨年一年間で漁協に報告されたサクラマスの漁獲量は135本。環境の違いが明白です。ところで、マスの身や骨、内臓を醤油とみりんで煮込んだ料理は絶品です。食べたことのある1、2年生は10人未満でした。

サクラマスはヤマメの降海型こうかいがたです。縄張り争いに敗れた個体が体色を銀色に変えて海に下り、栄養をつけて1年後に帰ってきます。その大きさは約60cmで3kg程度。川に留まった個体はせいぜい30cm程度なので、圧倒的な存在感です。春に戻ってきて秋に産卵するまでは、水生昆虫等を餌にしています。争いに敗れたものが大きくたくましく成長して子孫を残しに川に戻る。なんて痛快なのでしょう。

三面川鮭産漁協がサクラマス釣りを解禁した平成16年から、私もこの釣りに参加しました。最初の3年間はまったく何もなく過ぎましたが、4年目にドラマが起きました。弟の同級生を通じて釣り仲間がたくさん増えて、人の様子を観察するだけでなく、場所やルアーの選び方、流し方等、様々な情報を交換しました。そしてついに丸々と太ったサクラマスを手にしました。魚を手にして手が震えました。あのときの感動は忘れられません。兼好法師は『徒然草』の中で、「先達はあらまほしきことなり」と語っています。上手になりたければ、人に教しえを請うことです。謙虚であればこそ、誰かが見ていてくれるような気がしています。

4年間、私の稚拙な話にお付き合いいただきありがとうございました。私にとって、朝日地区と三面川は永遠に心の故郷です。

朝日中学校では、日々の取組をホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

ホームページアドレス <http://asahi-j.murakami.ed.jp/>



心を込めて作りました 卒業式のコサージュ 2月17日(木)

3年生が5・6限の総合の時間に、地元特産のシルクフラワーを使い、3月2日の卒業式で3年生が胸に飾るコサージュを作りました。



開校以来32年間続いている伝統行事です。講師は、朝日シルクフラワー製作工場の横井さんと太田さんです。この取組は、旧猿沢中学校の卒業生から、平成2年に統合した朝日中学校へ引き継がれたものであるというお話を、講師の横井様から聞かせていただきました。かつて養蚕が盛んだ朝日地区の伝統が脈々と息づいています。

1月31日の職業講話に続き、この日もNHK新潟放送局と朝日チャンネルの方が取材においでになりました。たくさんおいでだったためか、いつも以上に生徒に緊張感がありました。今年の花の色はこれまでの真紅からピンクに変更しました。



このコサージュを胸に、3年生は朝日中学校を巣立っていきました。

生徒総会と3年生に感謝する「桜の会」を実施しました

2月18日(金)

この日、5時間目に生徒総会を実施しました。感染症対策で、2階ホールを会場に各教室とオンラインでつなぎ、後期の取組の成果と課題を明らかにしました。また一歩、新しい挑戦が進んでいくことを予感しました。



続く6時間目は、体育館で、3年生に感謝する「桜の会」を実施しました。

思い出のスライドの上映、委員会の取組紹介の後、下級生から3年生へ、3年生から下級生へ、互いにメッセージを贈呈し、最後は体育祭で披露したダンスを1・2年生が赤軍と青軍に分かれて踊りました。



思いやりの気持ちがたくさん詰まった、とても素敵な会でした。準備してくれた1・2年生の皆さん、ありがとうございました。

成長を願う「つるし雛」を飾りました 2月22日(火)

生徒玄関に、給食調理員の中山さんからお借りした「つるし雛」を飾りました。これは、子どもの成長を祝うためのものです。3年生の卒業を祝うとともに、全員無事に進学できるようにと、祈りを込めて飾りました。



土曜朝日学習会が終了しました 2月26日(土)

9月から始まった土曜朝日学習会も、いよいよ最終回を迎えました。平成18年度から数えて16年目の今年度は、22回に渡り、過去の入試問題を中心に演習を繰り返し行いました。講師の先生方から、解き方のポイントや誤答の傾向を丁寧に教えていただいたおかげで、年末の実力テストでは受検者の平均点を超える成績を上げました。本当に粘り強く努力したと思います。



最後に閉校式を行い、講師の皆様からお一人ずつ入試に向けたご助言を頂戴しました。講師の皆様、本当にありがとうございました。

今年は県の予算配当がなく、講師の皆様にはボランティアで学習会にお越しいただきました。参加した生徒の皆さんには、感謝の気持ちを忘れずに、公立高校入試に臨むことを願いました。

2階にも冷水機を設置しました 2月28日(月)



2階多目的ホール脇付近に、かねてより生徒から要望のあった冷水機を設置しました。この経費は、1月末にいただいた、日本教育弘済会新潟支部と新潟日報社の共催による「特色ある教育活動実践校優良賞」の副賞から支出しました。

論文のタイトルは「居心地の良い学年・学級を築き、自律的に学ぶ生徒の育成～生徒の主体性を育む、学年担任制の実践を通して～」です。生徒の所属意識や自尊感情の3年間での変容が評価されました。3年間に2回受賞した中学校は県内では本校だけです。ありがたい限りです。冷水機は太田技能員さんが匠の技を発揮して設置しました。大切に使っていききたいものです。

第32回卒業式を挙行了しました 3月2日(水)

雲間から青空が広がる天気の下、第32回卒業証書授与式を盛大に挙行了しました。卒業生49名が全員揃い、一人一人に直接証書をお渡しできたことは、この上ない喜びです。



次のステージでも、本校で培った「自律する心」と、保護者や地域の皆様の支えで育った「優しさ」を胸に、一人一人の夢の実現に向けて挑戦し続けて欲しいと願っています。卒業生の皆さんの前途に幸あれとお祈りいたします。

最後は在校生が廊下で距離を取りながら卒業生を見送り、保護者の皆様は一足早く外に出られて、ご子息をお待ちでした。おおぞらさんの銅像も、卒業生の門出を祝福しているようでした。



また、この日もNHK新潟放送局のディレクターの方が来校し、自分で作ったシルクフラワーを胸に飾った卒業生の様子を取材されていました。ディレクターの方からは「とても温かい気持ちになる卒業式でした。中学校の頃を思い出しました。」と、何ともありがたい感想をいただきました。

これまでに行われたいくつかの取材内容が編集され、金曜日の夜の『きらっと新潟』で放映されるそうです。放映期日は決まり次第お知らせします。

胸に飾ったシルクフラワーは朝日の誇り。本校は卒業生にとって、いつまでも心の拠り所です。

職員随想「私の随想録」第6回 執筆職員の身近な話題、趣味や関心事、
継続して取り組んでいること等、自由で個性ある内容をお届けしています。

「“ふつう”って、なんででしょう。」

佐藤 隆子

「ふつうの生活ができるように、勉強を頑張る。」

これは、消費者教育の一環で人生ゲームを終えた生徒の感想です。

“ふつうの生活”って、何でしょう。あなたが思う“ふつう”は、今隣にいる人が思う“ふつう”と同じでしょうか。

高校は、同じ方向を目指して集まった仲間。でも、中学校には色々な仲間がいる。今や、一人一台のタブレットを持ち、調べたいことをいつでも検索して世界中の情報を入手できる時代。興味のあることも、得意分野も多種多様。そんな仲間と共に学び、共に活動できる中学校生活は、なんて素敵な時間でしょう。

“ふつう”という言葉に縛られず、違うことを受け入れ、楽しみ、世界を広げていくことで、今日と同じことをしても、感じることや考えることが変わっていく。苦手でも嫌いでも、とりあえず中学時代は全部チャレンジしてみよう。きっとその先に、“ふつう”に縛られない新しい自分の発見があるはず。

卒業式を終え、これまで見送った多くの生徒たちを思い出しながら、こんなことを思った3月でした。